

■ 図表2-9 バリアフリー対策の強化

5. バリアフリー ①競技施設・公共施設等のバリアフリー、②障害者への理解

**25. バリアフリー対策の強化**

【概要】  
 ○1日の乗降客数が3,000人以上の旅客施設、特定道路について、2020年度までに原則100%のバリアフリー化など、バリアフリー法の基本方針に定める整備目標の着実な達成に向けて取組を推進中。特に、空港アクセスバスのバリアフリー化に向けては、関係者が連携した取組を推進中。国土交通省内に設置（平成26年9月）した「バリアフリーワーキンググループ」において、大会を契機とした鉄道駅・空港における複数ルートのバリアフリー化など、今後重点的に取り組むべき施策について検討中。

基本方針における主な整備目標と現状		2013年度末 (現状)	2020年度末 (目標)
(鉄道)	○鉄軌道駅	83%	原則100%※1
	○鉄軌道車両	60%	約70%
(バス)	○バスターミナル	82%	原則100%※1
	○ノンステップバス	44%	約70%
	○リフト付きバス等	4%	約25%
(船舶)	○旅客船ターミナル	88%	原則100%※1
	○旅客船	29%	約50%
(航空)	○航空旅客ターミナル	85%	原則100%※1
(タクシー)	○福祉タクシー車両	13,978台	約28,000台
(道路)	○特定道路	83%	原則100%
(都市公園)	○園路及び広場	48% ※2	約60%
	○駐車場	44% ※2	約60%
	○便所	33% ※2	約45%
(路外駐車場)	○特定路外駐車場	51% ※2	約70%
(建築物)	○特別特定建築物	51% ※2	約60%

エレベーター  
(鉄軌道駅)

ノンステップバス

※1 旅客施設は段差解消済みの施設の比率。 ※2 2012年度末の進捗状況。

■ 図表2-10 新国立競技場

5. バリアフリー ①競技施設・公共施設等のバリアフリー ②障害者への理解

**26. 新国立競技場**

【概要】  
 ○新国立競技場におけるバリアフリー環境の詳細について、関係機関・関係団体等の意見を踏まえつつ、平成26年8月に着手した実施設計作業の中で、車椅子利用者の観戦場所や動線の確保等に関し、引き続き検討。

**【1階平面図】**

- ✓ 敷地への入り口(東京体育館連絡デッキ・国立競技場駅側入り口・絵画館側入り口・神宮第2球場側入り口)から各案内所への**主要な移動経路は可能な限り段差のない動線**を計画
- ✓ 上記入り口から案内所までのルートには**点字ブロック等の視覚障がい者用ルート**を設置
- ✓ 一般席エリアにおいて、**1層目メイン・バック・サイドスタンドに介助席付の車椅子席(120組)**を設置 ※必要時に増設可能
- ✓ 車椅子で利用できる**多目的トイレ**を設置
- ✓ 車椅子利用者の**視認性に配慮した高さ**、高齢者にとっても見やすい**サイズや色づかいに配慮したサイン**計画
- ✓ 聴覚障がい者及び高齢者の観戦を想定し、場内放送の補聴支援を目的とした**集団補聴設備対応席**を設置
- ✓ 視覚障がい者の円滑な誘導を目的として、**音声誘導装置や点字サイン**を、主要な出入口やトイレに設置
- ✓ 各階コンコースへの**観客動線にはエスカレーター及びエレベーター**を設置
- ✓ 1階に**託児室**、各層スタンドに**キッズルーム**を設置
- ✓ **トイレにはベビーチェア・ベビーシートを設置したブース**を設けるとともに、**授乳室**を各層スタンドに配置 など

(出典)日本スポーツ振興センター